

87
会報

響き日

発行所 公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会
〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-43-11

福祉財団ビル6F

TEL 03-6907-2537

FAX 03-6907-2915

発行人 山東 昭子 編集人 松本 末男
(題字 山東昭子会長)

第四十七回

聴覚障害児を育てた

お母さんや家族をたたえる会

お祝いのことば

公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会会長

山東 昭子



皆様今日は。

昨年引き続き全国からお集まりの方々と一緒にこの会が開けます事を嬉しく思っております。この会をスタートした

四十七年前から私もお手伝いしていましたが、聴覚障害に対しての社会環境はまだ冷たかったと思います。本日受賞されたご両親やご家族の方々、本当におめでとうございます。実は今年から「聴覚障害児を育てたお母さんや家族をたたえる会」と名称が変わり再スタートです。それに合わせて全国からお父さんの推薦者が増えました。

今回体験発表をして下さる内立元（うちたてもと）様もそのお一人です。

本年は、十一月にデフリンピックも行われます。

今日は又、文科省から金城政務官が出席して下さりご一緒に受賞されたお母さん達とご家族を讃えた

いと存じます。

皆様どうぞ宜しくお願い致します。

文部科学大臣政務官 金城 泰邦

本日ここに、第四十七回「聴覚障害児を育てたお母さんや家族をたたえる会」が盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

はじめに、このたび栄えある賞を受賞されます皆様に対し、心からお祝い申し上げます。また、聴覚に障害のあるお子様を支えてこられたお母様方、御家族の皆様、これまでのお子様に対する深い愛情と御献身に對しまして、心から敬意を表します。

さて、文部科学省におきましては、障害のある子供一人一人の自立と社会参加を見据えて、その時点での教育的ニーズに最も的確に應える指導を提供できるよう、特別支援学校をはじめ、特別支援学級、通級による指導、通常の学級といった連続性のある多様な学びの場の整備を進め、いずれの場においても障害のある子供と障害のない子供が共に学ぶことができるよう、インクルーシブ教育システムの構築に向けた取組を推進しております。

また、聴覚に障害のある子供たちの支援に当たっては、特別支援学校を中核として保健、医療、福祉等の関係機関が連携し、早期からの教育相談の充実に努めております。来年度におきましても、これらの教育相談の内容や体制の更なる充実を図るとともに、手話を含む聴覚障害教育の充実や聴覚障害に関する理解啓発を一層推進して参ります。

加えて、本年十一月には日本初となる「第二十五回夏季デフリンピック競技大会東京大会2025」が開催されます。文部科学省におきましても、関係機関と協力・連携し、大会開催に向けた機運醸成に努めるとともに、障害の有無にかかわらず、広く人々がスポーツに参画し、スポーツを通じた共生社会の実現に向けて、引き続き取り組んでまいります。

文部科学省としては、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、認め合える共生社会の形成を目指して特別支援教育の一層の充実を図ってまいりますので、皆様におかれましても、引き続きの御理解と御協力をお願い申し上げます。

結びに、本事業の主催者であります公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会の一層の御発展と、本日御参会の皆様のますますの御健勝、御活躍を心から祈念いたします。お祝いの言葉といたします。

こども政策担当大臣 三原 じゅん子

本日、公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会が主催される「第四十七回聴覚障害児を育てたお母さんや家族をたたえる会」の開催に当たり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

はじめに、この度表彰を受けられる、聴覚に障害のあるお子様を支えてこられたお母様や御家族の皆様方に、心からお祝いを申し上げます。

また、山東昭子会長をはじめ、永きにわたり聴覚障害児者とその家族に寄り添い、支援に携わってこられた関係者の皆様方の御尽力に対し、改めて敬意を表します。

こども家庭庁では、障害のあるお子さんとその御家族への支援の充実に取り組んでおります。

聴覚障害児につきましても、新生児期から学齢期まで切れ目のない支援を行うための体制の構築や、地域における聴覚障害児への支援の充実が重要であります。このため、支援の中核を担う拠点の整備とともに

に、コーディネーターによる巡回支援や家族への相談支援、支援事業所への研修会等の実施への助成などを行っております。

また、今般の令和6年度障害福祉サービス等報酬改定においても、

・人工内耳を着用している聴覚障害児への支援を行った場合の評価の充実や、

・視覚、聴覚、言語機能に重度の障害を有する場合の意思疎通に関し、専門人材を配置して支援を行った場合の加算の創設を行いました。

今後とも、関係者の皆様方の御意見も十分にお伺いしながら、支援の充実に取り組んでまいりますので、引き続きの御理解・御協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、この会を通じ、聴覚障害のある方々への教育や福祉の充実はもとより、幅広く国民の理解が深まっていくことを期待するとともに、公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会のますますの御発展と、本日ご参加の皆様様の御健勝をお祈りし、お祝いの言葉といたします。

(障害児支援課長 小野雄大様 代読)

〇〇お父さんの体験発表〇〇

鹿児島県 内立元 義一

子どもが生まれて、十ヶ月で急に母親が亡くなりました。二才から週一で聾学校に通い、三才から寄宿舎での生活が始まりました。泣いて寝ない時は先生が、添い寝をしてくださいました。

片道二時間かけて金曜日に迎えに行つて、日曜日に送っていきました。金曜日に帰るときは笑顔でしたが、日曜日は泣いて泣いて可哀想でした。後ろ髪を引かれる思いで帰りました。怒らない・褒めることを心がけました。

淋しさとストレスで嘔吐症になり、二回入院しまし

た。入院中は、仕事を早退して毎日見舞いに行き安心させました。

小学部一年生の時に手紙をもらいました。

「ぼくのみみがきこえたら、かみ川の(地元)がっこうにいけるからお父さんがつかれなくていいのね。ごめんなさい。ぼくもぼくもがんばるからね。」と書いてありました。優しい手紙をもらいましたので私も頑張りました。

中学部になってから、小さい子どもたちが入舎して泣いたりしていたら、お兄ちゃんも小さい時は泣いていたよ、と話しかけて一緒に遊んでいました。

学校の行事の時は、必ず学校に行き子どもを安心させました。

高等部になって進学するか、就職かを聞きましたところ、僕は愛知県の会社で仕事をしたいので試験を頑張つて合格するねと、言ってくれました。

国体にも三回選ばれましたが、コロナで中止や延期になり一回も出場できませんでした。東京オリンピックの聖火ランナーにも選ばれてトーチを持つてうれしそうに走っていました。

自分で決めた会社に入社出来て良かったです。八ヶ月して手紙をもらいました。

手紙には、

「私が鹿児島を出て八ヶ月経とうとしていますけどどうですか？私は、仕事に慣れ、職場の仲間たちとお客様が喜ぶような製品を協力して生産しています。私がここまで頑張つてこられたのは、お父さんが私のために男手ひとつで育ててくれたおかげです。本当に感謝してもしきれません。私が地元に戻った時には、おいしいものを食べたり、たくさん話をしたりしましょうね。十九年間ありがとう、そしてこれからもよろしく！亮祐より。」と書かれた手紙でした。私も元気に優しく育つてくれた子供に感謝です。

これまで私が頑張つてこられたのは、皆様が優しく支えて励ましてくださったおかげです。皆様方に感謝です。ありがとうございました。

〇〇桜内義雄賞受賞者〇〇

桜内義雄賞は、元衆議院議長で、当協会の会長を長くお務めいただきました桜内義雄先生の会長在任二十五年を記念して、昭和六十一年から毎年、社会貢献の著しい聴覚障害者の方を顕彰するために設けられた賞でございます。

今まで、芸術、医学、教育福祉、障害者運動等々、様々な分野で活躍してこられた方々を三十六回顕彰してまいりました。皆様これを契機にますます社会貢献の実績をあげておられます。

今年、画家の木脇 康一様(きわきこういち)様に贈られます。

木脇 康一様の言葉



はじめまして洋画家 木脇 康一と申します。

この度は、名誉ある「桜内義雄賞」を賜りありがとうございます。御礼申し上げます。

わたしは昭和二十年戦争中

の四才で耳が中耳炎で手術を受け、右耳は聞こえなくなり左耳だけわずかに聞こえる程度でした。

鹿児島県の町全体が爆撃で病院等全滅し、我が家もすべて焼けてしまいました。祖父母、母、私、親戚は近くの防空壕に身を寄せていたので助かりました。

父がフィリピンで戦死したとの報を受け、生計のため親戚の熊本に引越し、普通の小学校に入学しました。授業中の席が前でも先生の話が聞こえづらく二年生になる頃に東京に勤めている叔父の勧めで、東京の品川ろう学校に入学することになったわけです。普通校と違い口話中心の授業でわかりやすく勉強について行けるようになり自信になりました。

絵の話になりますが熊本の小学校の時から好きだったようで、小学三年の時品川ろう学校の担任の先生の勧めで美術科の先生を紹介され、週一回の絵画教室に

通うようになりました。母から油絵具を買ってもらった喜びと感謝は今でも忘れられない思い出です。

高等部卒業まで四人の美術の先生に指導を受け、具象、抽象画を描かれる先生方の教育は色々な面で勉強になりました。

画家志望だったが、美大を出ても絵では食えない世界だから美術の先生の紹介で印刷会社の原稿作成課に入社した次第です。

サラリーマンのかたわら描き続け、団体展の示現会、日展、日洋展に入選し、のちに示現会の会員になりました。

品川ろう学校の美術部の仲間六人で、銀座の画廊でレモン会展というグループ展を一年おきで開催しました。五十二才の時、銀座の渚画廊に認められ、各百貨店に企画展として出品を続け、五十七才の時、藤沢小田急百貨店で初個展を開催していただき今日に至っております。

印刷会社を定年退職後、二〇〇一年から二〇〇七年までスペイン、ポルトガル、イタリア、フランスへ六回、スケッチ取材旅行に出かけ、湘南風景をメインに制作しております。

二〇一五年に全国聾学校絵画の錦織重治氏（示現会の同志でもあります）に、絵画展の審査をやってみないかと言われ、承諾し現在まで続けております。

いつも思っている事ですが、審査の時作品から色彩感覚、発想の自由さ、感性の豊かさに感激し、私自身勉強になり感謝しております。全国の学校の先生、父母の方には、生徒の感性、能力をのばす環境づくりにご協力をお願い申し上げます。

絵の好きな全国の生徒の皆さん、良い絵に出会えることを楽しみに待っております。

それでは私の絵をスクリーンに映して発表したいと思います。

最後までご覧いただきまして誠にありがとうございます。

●第四十七回 聴覚障害児を育てた お母さんや家族をたたえる会 受賞者一覧

北海道

吉田友美 森屋真紀子 大川龍
藤倉由美子 武田倅朋

青森

高木美幸 齊藤詩都香
下川原みゆき

岩手

今野真弓

秋田

山田時子 佐々木代子

茨城

小島裕子

埼玉

飯野啓子 田野房治 松田信博

千葉

岩田昌子 飯田秀美 水田江美

東京

吉田美幸 福田陽子 中澤茂美

長野

宮澤美栄子 田中恵美子

山梨

細川かおり



「早暁の富士」木脇康一

愛知 櫻井美穂 大西紀子
大阪 石田利恵
兵庫 東英美
佐賀 坂村八千代
鹿児島 内立元義一
表彰者合計 三十名

●第三十六回 全国聾学校合奏コンクール 審査結果

金賞 文部科学大臣賞

東京都立立川学園 小学部六年生
「千と千尋の神隠し」より

銀賞

東京都立大塚ろう学校 小学部六年生
ミュージカル「ライオンキング」より

銅賞

東京都立大塚ろう学校 小学部五年生
ミュージカル「アラジン」より

努力賞

福島県立聴覚支援学校 中学部三年生
「手紙〜拝啓十五の君へ〜」

努力賞

東京都立立川学園 小学部五年生
「生命の息吹」

努力賞

東京都立大塚ろう学校 小学部五年生
「永遠の花」

努力賞

東京都立中央ろう学校 高等部一年生
「パイレーツカピリアン」サウンドトラック

努力賞

長野県長野ろう学校 中学部全学年
「絆」2024、つなぐ」

努力賞

静岡県立静岡聴覚特別支援学校
中学部二・三年生

「波音」**審査員奨励賞**

埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園
中学部三年生

「五人の打楽器奏者のための即興的小品」

審査員奨励賞

大阪府立生野聴覚支援学校
中学部三年生

「生野太鼓」**審査員奨励賞**

福岡県立福岡聴覚特別支援学校
中学部全学年

「Bring-Bang-Bang Bon」**全国聾学校合奏コンクール審査総評**

審査委員長 尾崎 正峰

新型コロナウイルスの猛威が少し落ち着きを見せな

がらも、まだまだ油断ができない中、福島、東京、静岡、長野、京都、大阪、岡山、山口、福岡の各地から二十二グループの演奏の映像が送られてきました。そのいずれもが、練習を積み重ねた生徒さんたちの頑張りはもちろん、ご指導に当たられた先生方、活動を支えられた保護者・関係者の方々、そうしたすべての方々の営みと思いを投影しているものでした。

金賞・文部科学大臣賞を獲得した東京都立立川学園小学部六年グループ、銀賞の東京都立大塚ろう学校小学部六年グループ、銅賞の東京都立大塚ろう学校小学部四年グループと静岡県立静岡聴覚特別支援学校中学部グループは、甲乙付けがたいレベルの高い演奏でした。そして、ここに名前を挙げた以外の学校・グループの演奏も、それぞれの特徴と持ち味をよく表した個性的なものばかりでした。

全体を通して、音の一つひとつを丁寧に奏でることを心がけているのを見て取ることができました。この点は高く評価されるものであり、そのことに伴って、演奏水準の向上がはつきりと現れてきていることは、たいへん素晴らしいことです。ただ、そのために「（順位をつけることは）苦渋の選択」との発言が審査委員から出てくるなど、審査上の悩みが大きくなってきています。

例年申し上げているように、ひとり一人が音楽に向き合い、音楽を通して自分（たち）らしさを表現すること、そのプロセスを仲間と共にすることを本コンクールはもつとも大事にしてきました。練習の過程で苦しさや辛さが伴うこともあるかもしれませんが、「音楽」の字の通り、仲間と「音を楽しむ」ことの価値は計り知れないものがあります（音楽というものの特質から「言葉に表せない」とも言えるかもしれませんが）。音楽を続けていく上での苦労はさまざまにあると思われませんが、「コンクール」ということで身構えたりすることなく、全国各地の学校・グループがこれまで以上に多く参加されること、一人でも多くの人が合奏の場を経験できること。そうした裾野の拡がりは、仲間

と「音を楽しむ」ことの価値の理解の拡がりと深まりにつながると思います。

これからも、個性が輝く演奏に出会えることを審査委員一同願っています。

全国聾学校合奏コンクール

第三十五回全国聾学校合奏コンクール表彰式は、令和七年三月十八日（月）に、東京都立立川学園ろう学校小体育館において、山東会長が出席して行われました。また表彰式後には在校生やご父母参加の下、披露演奏会も行われました。会長は子供たちと直接話をされて、個々の子ども達とも記念写真を撮られておられました。子ども達は大きな刺激を受けたと思います。来年度も金賞を取りたいと子ども達からささやかれました。



東京都立立川学園での表彰式

ハマナス募金

当協会が実施しております事業は、公益財団法人 JKA 様より公益資金の補助をはじめ皆様方からのご寄附（ハマナス募金）により実施しています。皆様方のご理解とご支援に深く感謝いたしております。

今年度も計画事業の適正な実施に努めているところでございますが、昨今の社会情勢から事業資金の確保が大変厳しい状況にあります。つきましては、皆様方より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ハマナス募金のお振込みは、郵便振替もしくは銀行振込にてお願いいたします。

郵便振替口座 00110-9-134877

名 義 聴覚障害者教育福祉協会

銀行振込 みずほ銀行江戸川橋支店

普通口座 1615748

名 義 公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会

会長 山東 昭子

当協会は、令和四年三月二十八日内閣府（内閣総理大臣）より税額控除に係る証明を受理しており、この度令和四年三月三十日から令和九年三月二十九日までの有効期間の延長が認められました。

令和六年四月一日から令和七年三月末日までの間に、次の皆様方よりご寄附をお寄せいただきました。誠に有難うございました。

（敬称略）

（株）日健総本社（森 伸夫）、仲田邦男、木内弘司、

谷口昭子（毎月）、関根正浩、

一般社団法人日本伝統文化協会（二回）、

群馬県聴覚障害者親の会、日本聾話学校、

大沼直紀、長野ろう学校 PTA、藤本 登、

株式会社 ATOMIC, S（山 勝彦 三回）、

山田春雄、北海道高等聾学校、

近畿調査株式会社（代表取締役 武 健二）、

杉山 実（二回）、小森谷春代、辻村哲夫、鈴木 厚、

一柳淳子、堅田明美、石川庄六、廣田栄子、水谷宣一、

安藤裕央、山田春雄、山本博美、田中美郷、小林 明、

リオン株式会社、成田久江、佐々木節子、竹内美和子、

中村喜久子、大坪 都、暮石津多江、鄭 仁豪、

西郷ソーラー発電（浅井健二）、

東京ホールディング（浅井健二）、

テアトルアカデミー（浅井健二）、齋藤佐和、橋本 愛、

阿部きみよ、小野寺佐知子、武田智彦、松本ろう学校

社会を創る活動補助事業

一、事業実施内容

○デジタル補聴援助システムの支援

- ・無償貸与は、JKA 補助事業の支援がなく実施できなかつた

○早期教育支援事業

- ・聴覚障害乳幼児を持つ保護者を対象にした研修会への講師派遣事業

令和6年度はJKA補助事業の支援がなかったため実施ができなかつた。

トピックス

令和6年度

聴覚障害教育振興奨励賞受賞校について

聴覚障害教育振興奨励会庶務 鈴木 茂樹

去る二月十五日の聴覚障害教育振興奨励会（会長 四日市章）の審査会が全国心身障害児福祉財団ビル内で開催され、受賞校二校が決定した。

埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園

研究実践報告者 教諭 永野 太久

研究テーマ

「聾学校小学部における国語科指導の授業づくりの視点（言葉でのやり取りを大切にしたい「お手紙」の指導を通じて）」

研究実践の内容

聾学校小学部の課題として、少人数、多様なコミュニケーションの活用（手話と聴覚音声の混在及び、教科学習での日本語の理解など）が挙げられるため、これまで聾学校で継承されてきた言語指導の基本を再度明確にして、指導力・専門性を維持することに取り組んだ。具体的には、振り返りプリントの活用、教材の仕掛け作りなどの実践を若手教員と共有し、継承していく取組や自身の授業を文字化して振り返る取組をして、若い世代に引き継いでいる。

今後新しい世代に引き継いでいける取り組みとして、価値ある取り組みである。今後他校の実践に役立つものであると考える。

東京都立中央ろう学校

研究実践報告者 教諭 山崎 亜矢

研究テーマ

「全日本聾教育研究会で発表した実践的研究 伝える、尋ねる、話し合う」他者と共に学び合い思考を深める生徒の育成」

研究実践の内容

中高一貫体制の中で、三年にわたり授業改善を目指した取り組みである。授業の実践と参観を通じて、評価会・校内研究会・指定授業事業研究会を行い、副題にある「伝え合う、尋ねる、話し合う」を踏まえて、学び合い、思考を深める研究を重ねた。

本研究は、教師一人一人の授業力を高めるための取組、そして、聾教育の基本でもある生徒の実態に即した発問の工夫に結び付く取組であり、他校の参考になるものである。

東京都難聴児相談支援センターの開設

平成六年三月一日福祉財団ビル六階に東京都難聴児相談支援センターが発足いたしました。六階の建物の中を改造し、協会とセンターが同居してそれぞれが新しくなりました。三月から翌年の三月までに、〇歳児の乳児が九十一名ほどが来所され、お母さんやお父さんが今抱えている悩みを相談されていきました。お母さんたちの声を聴くと、保健婦さんや産婦人科の先生に難聴を告げられても我が子が聞こえないという事実を受け入れられなかった、確定診断のための病院の検査を受診するようにと言われてもなかなか行けなかつ

た時にこの相談支援センターを知り、出向いて相談をして、とっても良かったと言われました。また、持つて生きようのない悩みを聞いてもらい、少しずつ前を向けるようになった。難聴児を授かったお母さんたちが、少しでも気持ちに上に向くためにも、このセンターが果たす役割は大きいともいわれました。

そして、すべてのお母さんが今困っていることや、相談したいことを訴えられる場所はないので、ここにみんな来て安心してほしいとの話も聞かれました。ありがたい言葉だと思います。私たちも、居心地の良さをもっと工夫していきたいと思っています。

今後東京都の聴覚障害児のための中核機能を持つ機関として、内外に発信していきたいと思っています。ご支援よろしく願います。



相談室2

編集後記

会報「響き」八十七号をお届けします。
主に令和六年度後半の事業についてお伝えします。

後半の大きな事業の一つである「聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会」は、昨年度同様に船堀タワーホールにて。式典・発表会共に佳子内親王殿下の出席は叶いませんでしたが、実施できました。全国から三十六名のお母さん方の推薦があり表彰されました。

全国聾学校合奏コンクールについては、ほぼ予定通りに審査も進み開催することができました。合奏コンクールの金賞は都立立川学園が初めて金賞を受賞しました。おめでとうございます。

二〇二五年度の協会の事業においては、JKAの補助事業が新たに認められましたので二つの事業が復活します。「聴覚障害児を育てたお母さんと家族をたたえる会」と名称を変更し、また新たに「東京都難聴児相談支援センター」も開設して気持ちも新たに事業を実施します。全国の聾学校、関係機関、関係団体等のご理解ご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。